



2020(令和2)年4月25日発行

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)
住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15
TEL/06-6879-5111(代表)

QRコードから本院ホームページをご覧ください



<http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp>

禁転載(この紙面は再生紙を使っています)

執行部一覧 令和2年4月1日現在



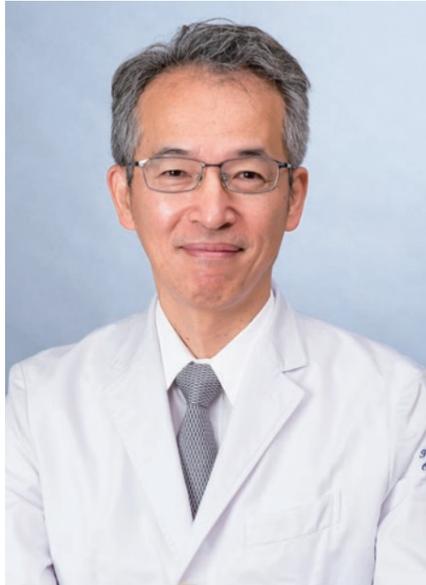
病院長	土岐 祐一郎
副病院長	人事労務・医療安全 竹原 徹郎 財務・がん診療 野々村 祝夫 教育・診療体制 藤野 裕士 ホスピタリティ 越村 利恵
病院長補佐	小児・周産期・再開発 木村 正 研究・救急医療 坂田 泰史 中央診療施設 小川 和彦 広報・中期目標・計画 奥山 宏臣 医療情報・地域医療・外部評価 松村 泰志 女性支援・ダイバーシティ 池田 学 経営・組織改革 延原 寿男

チームで応える安全医療 研究シーズ 臨床に生かす

新病院長 インタビュー

大阪大学医学部附属病院長 土岐 祐一郎

4月1日付で本院の新しい病院長に消化器外科の土岐祐一郎教授が就任しました。「チーム力を生かして、高度で安全な医療を提供していきたい」という土岐病院長に、抱負や病院の運営において重視したいことなどをお聞きしました。



拠点病院として地域を支援

新しい医療を広げるといふ役割が特に重要です。臨床研究における認定倫理審査委員会や遺伝子パネル検査の結果を解析するエキスパートパネルは多数の専門家を必要とするため、全ての市中病院で設置することは不可能です。このため、本院が専門家集団を有する司令塔となって地域の医療機関とネットワークを作ることで新しい医療を広めていきます。電子カルテを繋いだOCRネットのように、関連病院とのネットワークは臨床研究を行う上での本院の最大の強みといわれています。

医療者教育を充実

社会人教育を通して地域の医療に貢献することも我々の使命の一つです。2年間の初期臨床研修を終えた医師がさらに3年程度、現場で研修を行う「新専門医制度」が開始されて3年目を迎えますが、大阪府では内科をはじめ定員の関係で希望者を全て受け入れることができません。大学病院が中心となって対策をと

り、多くの専攻医を確保することは、関連病院と一体となつての発展のために不可欠です。また、今年度から本院では看護師の特定行為研修や薬剤師のレジデント募集が始まります。多くのメディカルスタッフも大学病院で高度な卒業教育を受けて関連病院へ

新しい医療を開発

大阪大学医学部附属病院には新しい医療の開発が求められています。平成30年に「がんゲノム医療中核拠点病院」の指定を受け、昨年からは保険診療として遺伝子パネル検査を開始しました。当院は「未診断疾患イニシアチブ拠点病院」にも選ばれており、今後、未診断疾患や希少疾患に対しても遺伝子検査を拡大していく予定です。また、再生医療では心筋や角膜などで国の基盤事業を担っています。本院において、研究室が持っているさまざまなシーズをアイデアのままで終わらせず、臨床につなげて患者さんに還元し

ていくための役割を担っているのが未来医療開発部で、その活動をさらに発展させていくことが必要です。さらに、一昨年から「AI(人工知能)基盤拠点病院」の指定を受けてAIの医療現場での活用を目指しています。この事業では単に学問的価値ではなく、こんなことができたらいなという患者さんに寄り添った「ドラえもん」な発想で、AIを医療現場に取り入れたいと思っています。

ネットワーク整備

「臨床研究中核病院」や「がんゲノム医療中核拠点病院」などでは、地域の中核として

立ちつづつあります。かつて大学病院は教育機関として良質な慢性疾患を多く扱っていましたが、医療ニーズに合わせて、より多くの高度な医療、侵襲的な治療を担うようになってきました。しかし、外科手術、血管内治療、内視鏡治療、放射線治療、化学療法などが急激に増加した結果、病院機能が追いつかなくなりました。そこで本院では、病院再開発として新しい統合診療棟の建設に取り組みしております。工事は令和3年に始まり令和7年の運用開始を目指す計画です。具体的な建物の規模や工事の期間等が決まりましたら、お知らせいたします。この期間には患者さんにご迷惑をおかけしますが、ご容赦ください。また、よろしくお願いいたします。

今後の抱負

私は食道がんの手術が専門で、大動脈血管併切除など、リスクの高い手術に取り組んできました。これには心臓血管外科、呼吸器外科、形成外科といった多数の診療科の協力、ICU(集中治療部)や病棟のスタッフなどとのチーム医療が必須です。また、大きな事故なく大手術ができるのは本院の医療安全のレベルが高いおかげです。つまり、チーム医療と医療安全が大学の

阪大病院の将来構想

かつて大学病院は教育機関として良質な慢性疾患を多く扱っていましたが、医療ニーズに合わせて、より多くの高度な医療、侵襲的な治療を担うようになってきました。しかし、外科手術、血管内治療、内視鏡治療、放射線治療、化学療法などが急激に増加した結果、病院機能が追いつかなくなりました。そこで本院では、病院再開発として新しい統合診療棟の建設に取り組みしております。工事は令和3年に始まり令和7年の運用開始を目指す計画です。具体的な建物の規模や工事の期間等が決まりましたら、お知らせいたします。この期間には患者さんにご迷惑をおかけしますが、ご容赦ください。また、よろしくお願いいたします。

診察後に……お待たせしません 医療費後払いサービス開始

医療費後払いサービスとは、診察日当日の医療費を後払いにすることで、料金計算を待たずにお帰りいただけるサービスです。病院に対するご意見の約3割を占める診察や会計、駐車場等で長時間お待たせしている状況を改善する一環として導入しました。

ご利用には事前登録が必要です。お手持ちのスマートフォンでQRコードを読み取るか、パソコンで利用登録サイトにアクセスして、クレジットカード番号など必要な情報を登録すれば、15分程度でサービスの利用が可能となります。

登録完了後は、その日から利用できます。診察後に後払い専用窓口で受け付けをすれば、料金計算を待たずにお帰りいただけます。医療費は後日、登録したクレジットカードから一括で引き落とされます。

領収書と診療明細書は、クレジット決済完了のメール着信後、病院内に設置する専用プリンターで印刷できます。なお、サービスは外来の医療費が対象で入院医療費のお支払いにはご利用できませんのでご注意ください。

登録の方法・条件など、詳しくは院内で配布しているリーフレットをご覧ください。また、外来棟1階エントランスに「後払いサービス案内ブース」を設置しています。ぜひ立ち寄りください。

本院では、引き続き患者さんの負担軽減のため、さまざまな方策を取ってまいります。医療費後払いサービスの登録とご利用をお願いします。



2車両のデザインは本学クリエイティブユニットが担当しました。コンセプトは「ドクターの医療にかける情熱と誇りを青と赤のラインの大きな流れとして表現した」とのことです。子どもたちがドクターとしてこの車に乗ってみたいと憧れるよう、従来の医療関係車とは一線を画すスタイリッシュでクールなデザイン。「疾走感を纏うことで町中でも目立つ」よう工夫を凝らしています。(写真右からドクターカー、DMATカー)

既に運用しているドクターカーとともに、地域の救急医療、災害医療にますます貢献できるように運用体制を整備していきたいと考えています。

ドクターカー・DMATカー導入 救急や災害時に活躍

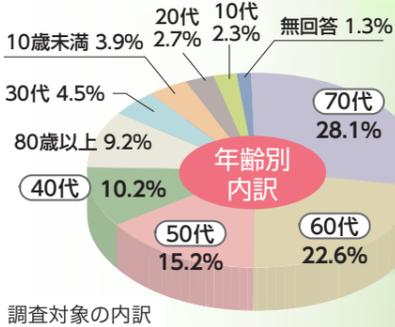
長年待ち望んでいたドクターカーおよびDMATカーが、大阪府の平成31年度救急患者等搬送体制整備事業により、令和2年4月から本院に導入されました。この整備事業は、「大阪府の救急災害医療の推進において、その現場で一生懸命に働く方々に活用してほしい(形があり、目に見えるもの)に役割を立つこと」とのご意向のもとに、個人の篤志が財源となったものです。

ドクターカーは医療機関が所有し、医師が救急現場へ出動する緊急自動車で、119番通報を受けた消防機関から災害時用の緊急自動車です。本院DMATはこれまでに多くの災害の際に被災地へ出動しましたが、専用の車両がなかったために隊員の派遣に苦労してきました。今回導入したのはワンボックスカータイプの車両で、ドクターカーと連携して災害時の多様な活動に対応できるようにします。ドクターカー、DMATカーを運用するために救急救命士の資格を有する3名の職員が4月より着任しました。緊急自動車の運転とともに高度救命救急センターでの初療などに携わります。

本院DMATはこれまでに多くの災害の際に被災地へ出動しましたが、専用の車両がなかったために隊員の派遣に苦労してきました。今回導入したのはワンボックスカータイプの車両で、ドクターカーと連携して災害時の多様な活動に対応できるようにします。ドクターカー、DMATカーを運用するために救急救命士の資格を有する3名の職員が4月より着任しました。緊急自動車の運転とともに高度救命救急センターでの初療などに携わります。

入院患者さん

平均 **93.5%** 満足
(回答数=665)



●入院患者さん 満足度ランキング

ベスト5	1位	リハビリ職員の態度や言葉遣い	99.6
	2位	薬剤師の態度や言葉遣い	98.8
	3位	職員の身だしなみ	98.7
	4位	検査職員の態度や言葉遣い	98.2
	5位	本人や氏名、病名、薬の確認	97.8
ワースト5	1位	インターネット環境	75.4
	2位	トイレや浴室	78.3
	3位	エレベーターや廊下	80.1
	4位	個室料金	83.9
	5位	食事	84.0

令和元年度

満足度調査

結果発表!

外来患者さん、入院患者さんを対象とした満足度調査にご協力をいただき、ありがとうございました。このたび令和元年度の調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

●調査結果

外来患者さんの87.8%、入院患者さんの93.5%の方に、「満足」「やや満足」のご回答をいただきました。満足度の低い項目は、外来では「駐車場整備等」「会計や診察の待ち時間」、入院では「インターネット環境」「トイレ・浴室設備」「エレベーター待ち時間等」でした。

これからも患者さんにとって心地よく、治療に専念できる環境を整えていきたいと考えております。より多くの患者さんのご意見を伺いたいと思っておりますので、今後ともご協力のほどよろしくお願いたします。

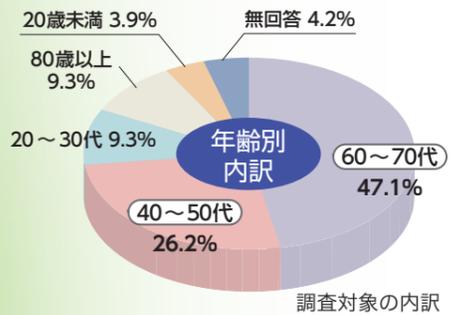
●調査期間

入院 令和元年10月1日～21日の21日間
 外来 令和元年9月2日～6日の5日間



外来患者さん

平均 **87.8%** 満足
(回答数=3,337)



●外来患者さん 満足度ランキング

ベスト5	1位	診察室の清潔かつ整理整頓	97.8
	2位	医師のプライバシー配慮	97.5
	3位	医師の態度や言葉遣い	96.9
	4位	看護師のプライバシー配慮	96.6
	5位	技師の態度や言葉遣い	96.6
ワースト5	1位	会計の待ち時間	52.6
	2位	駐車場の広さや台数	54.0
	3位	診察までの待ち時間	54.0
	4位	会計待ちでの声掛け等の配慮	74.3
	5位	診察待ちでの声掛け等の配慮	76.3



入院患者満足度…具体的なコメント例

- ・医師、看護師、職員の説明も丁寧で安心して治療を受けることができました。
- ・看護師の方々の対応がとても素晴らしいです。安心・安全の入院生活を送らせていただきありがとうございました。
- ・フリー Wi-Fi があれば良い。
- ・トイレ、洗面所の数を増やしてほしい。
- ・シャワー室やトイレなどはもっと清潔感がほしい。
- ・病室内の清掃が不十分です。
- ・エレベーターがなかなか来ない。
- ・病衣の襟元のアイロンがけが不十分でした。着る身になってお願いします。

外来患者満足度…具体的なコメント例

- ・医師、看護師、技師の方々はいつも寄り添って親切丁寧に対応してくださりありがたく思っております。
- ・医師、看護師、皆さんとても親切です。満足です。
- ・診察、会計の待ち時間が長い。
- ・目安でもいいので待ち時間の表示がほしい。
- ・駐車場の混雑を解消してほしい。
- ・トイレの数が少ない。
- ・洋式を増やしてほしい。
- ・車椅子用のトイレを増やしてほしい。
- ・トイレの清潔感を保ってほしい。
- ・休憩、昼食を取る場所がない。

このたびは本院は、大阪府小児がん拠点病院の指定申請を行い、令和2年2月17日に大阪府知事から指定通知(指定期間)令和2年4月1日～令和6年3月31日を受けました。

大阪府小児がん拠点病院は、府内における小児がん医療及び連携体制の水準の向上を図るとともに、府民が安心かつ適切な小児がん医療を選択できることを目的として、大阪府がん対策推進委員会小児・AYA世代のがん対策部会及びがん診療連携検討部会の意見を踏まえ、大阪府が設置したものです。



本院が
大阪府小児がん拠点病院
に指定されました

本院はすでに、平成21年に地域がん診療連携拠点病院(国指定)に指定され、平成30年にはがんゲノム医療中核拠点病院(国指定)に指定されています。今後も、中核拠点病院としての責務を果たすべく地域のがん診療を支えるとともに、大学病院としてがんを専門とする医療者の育成に努め、技術・情報交流及び人事交流を通じて大阪府下のがん拠点病院をはじめとするがん診療を行う医療施設と協力し、大阪府のがん医療に貢献していきます。

令和2年度 優秀標語表彰式

今年度の標語が決定

接遇・マナー向上目指して

令和2年3月2日、病院長室において、木村病院長から4名の優秀標語作成者に表彰状と副賞が授与されました。

患者サービス検討委員会では、職員の一一人が患者さんの立場に配慮できるよう努めるとの主旨で、接遇・マナー向上に関する標語を掲げています。

このたび、院内に標語を募集し、患者サービス検討委員会で検討の結果、次のとおり優秀作品が決定しました。

なお、応募者全員に参加賞が渡されています。



前列左から松田さん、木村病院長、中村さん、佃さん。だ円の写真は西原さん

1～3月期 10～12月期 7～9月期 4～6月期

「見逃すな いつもと違う 違和感を」 (医事課 医療安全係長 松田晃蔵さん)	「気遣いは 患者の心 穏やかに」 (医事課 患者サービス係 中村名見子さん)	「あいさつが つなぐチームの 信頼感」 (看護管理室 副看護部長 佃 順子さん)	「焦らない 困ったときは 誰かに相談」 (リハビリテーション部 西原 武志さん)
---	---	---	---

令和元年度 防災訓練

シナリオなし



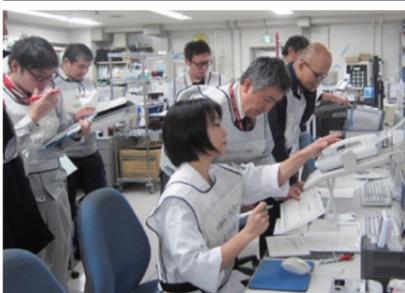
本部設置やトリアージ

令和元年12月14日、防災訓練を実施しました。「金曜日勤務時間内に地震7の上町断層地震が前震と本震の2度にわたり発生した」との想定で、シナリオを用いない完全アラウンド方式で実施しました。

前半は災害対策本部やトリアージエリア等の新設エリアの設置を目的とし、後半は被災状況の情報収集を行い、本院の診療能力を維持するとともに、翌日以降の休日の災害医療体制を整えることを目的に実施しました。

午前9時に病院長をはじめとする災害対策本部メンバーが仮設災害対策本部の防災センターに集合して情報収集を行い、リハビリテーション部での災害対策本部設置や外来受付付近でのトリアージエリア設置等に取り組みました。

災害対策本部では、次々に発生する院内外のインフラ障害等の問題への対応を確認しました。トリアージエリアでは模擬患者として医学部保健学科生がボランティアで参加して、看護部による患者受け入れと、各エリアと指揮所及び本部内ベッドコントロール部門を繋ぐ新システムのフェイル(被災患者リスト)を活用した患者情報の流れの運用の検証がされました。新シナ



△は患者の情報と流れを各所で入力できることから、電話連絡での情報の混乱の解消と、システムの有効性の検証ができました。

今回は豊能医療圏内の二次救急告示病院と災害拠点病院との連携強化訓練も併せて実施しました。さらに豊中市保健所、吹田保健所、池田保健所も参加され、二次救急告示病院が大阪府救急・災害医療情報システムへ入力した被災状況の確認も行われました。

本院は災害時に、豊能二次医療圏の災害拠点病院の一つとして、地域の病院、医師会、保健所と連携して活動することが重要となります。今回の訓練は各病院や保健所等がそれぞれ課題を見直す良い機会となりました。

令和2年度

「病院教授」の称号付与について

病院教授の称号は、大阪大学医学部附属病院における診療・研究・教育の充実のため、特に臨床面で優れた業績が認められる者に対して付与しているものです。

令和2年度は下記の22名に「病院教授」の称号を付与することを決定しました。

Table with 4 columns: 番号, 診療科等名, 氏名, 職名. Lists 22 names and their respective departments and titles.

※上記の称号付与者の職名等は令和2年4月1日現在のものです。

新

診療部門長等紹介



●感覚・皮膚・運動系科部門長
ふじもと まなぶ
藤本 学

このたび、感覚・皮膚・運動系科部門長を拝命いたしました皮膚科長の藤本です。本部門は、感覚や運動に関わる眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、皮膚科からなり、部門内、また内科系や外科系など他部門のいろいろな診療科と密接に連携しながら診療を行っています。

(令和2年4月1日就任)



●脳神経精神科部門長
きしま はるひこ
貴島 晴彦

神経科・精神科の池田学教授から引き継ぎ、脳神経精神科部門長を拝命いたしました。この部門は、神経内科・脳卒中科、神経科・精神科の内科系2科、麻酔科、脳神経外科の外科系2科の4科で構成されています。

(令和2年4月1日就任)



●女性・母子・泌尿生殖科部門長
おおさの けいいち
大藪 恵一

このたび、女性・母子・泌尿生殖科部門長を拝命いたしました。本部門は、診療科としては、産科・婦人科、小児科、泌尿器科から構成されています。これら3診療科は、互いにその専門性を有機的に生かして、この分野の診療を充実させています。

(令和2年4月1日就任)



●移植医療部長
うえの たけひさ
上野 豪久

このたび、移植医療部長を拝命いたしました。本院は、すべての臓器移植(心臓、肺、腎臓、肝臓、膵臓、小腸)の実施施設として認定を受け造血幹細胞移植も実施しております。

移植医療には、全診療科・診療部門との連携が必要です。移植医療部は取りまとめ役として、そしてレシピエント移植コーディネーターを通して患者さんのサポートを行い、チーム医療を推進しています。

人の命をつなぐドナーのお気持ち、確実にレシピエントにつながるように、そんな尊い気持ちをつなぐ医療を目指します。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

(令和2年1月1日就任)



●内視鏡センター長
たけはら てつお
竹原 徹郎

このたび、内視鏡センター長を拝命いたしました。当センターは、消化管や呼吸器などの「くだ状」の臓器を対象に、からだの中を直接「見る」ことによって、患者さんの疾患を正確に「診断」しています。

(令和2年4月1日就任)



●オンコロジーセンター長
えぐち ひでとし
江口 英利

オンコロジーセンター長を拝命しました。オンコロジーセンターはがん化学療法、放射線治療、がん相談支援室、患者交流会、各種セミナーの開催など診療科横断的ながん診療体制の中心的な役割を担っています。

(令和2年4月1日就任)



●高難度新規医療技術審査部長
しんたに やすし
新谷 康

平成29年3月に設立された高難度新規医療技術審査部の部長を拝命いたしました。同審査部では、本院で実施したことのない医療技術に関して、その実施により患者さんに重大な影響が想定される医療を提供するにあたって、審査部内に設置された高難度新規医療技術評価委員会からの意見を踏まえ適否などを決定します。

(令和2年4月1日就任)



●緩和医療センター長
えぐち ひでとし
江口 英利

緩和医療センター長を拝命しました。本院では平成31年4月1日より緩和医療センターを開設し、がん、心不全、小児がんの三つの部門で患者さんの精神的、肉体的な苦痛の緩和と生活の質(Quality of life: QOL)の向上に向けて、医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士等によるチームアプローチを行っています。

(令和2年4月1日就任)



●腸管不全治療センター長
おくやま ひろおみ
奥山 宏臣

このたび、腸管不全治療センター長を拝命しました。腸管不全とは、種々の原因により腸管からの栄養や水分の吸収が障害された状態のことで、静脈からの定期的な栄養・水分補給を要します。

(令和2年4月1日就任)

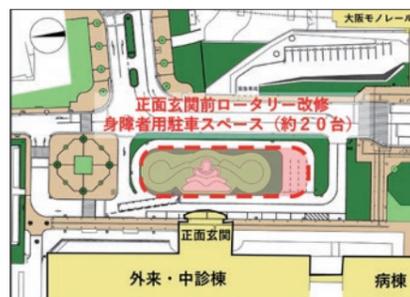


●未来医療開発部長
さかた やすし
坂田 泰史

このたび、未来医療開発部長を拝命いたしました。未来医療開発部は基礎研究の成果を臨床に橋渡しする「未来医療センター」に加え、広く臨床研究の支援を行う「臨床研究センター」、臨床試験のデータ管理・統計解析を行う「データセンター」、医療技術の海外展開や海外からの研究者受け入れを行う「国際医療センター」の四つの組織から構成されます。

(令和2年4月1日就任)

身障者用 駐車場の改善



正面ロータリー 工事へ

本院の身障者用駐車スペースは、現在、病院建物北側の患者用駐車場の移動距離が長いなど改善を望むご意見をいただいております。これについて検討を行い、正面玄関前のロータリーを改修し、新たに身障者用駐車スペース(約20台)を確保することいたしました。これにより、正面玄関までの移動距離が短くなり、車椅子を利用される身障者の皆さまがお車で来院される際の利便性の向上を図ることができるよう期待しています。

PHOTO ホスピタルミニ・ニュース TOPICS

阪神タイガース元選手、横田さんが来院



1月29日(水)、阪神タイガース元選手の横田慎太郎さんが、入院患者さんを励ますために本院を訪問されました。病棟でサイン会が開かれ、横田さんは患者さんに「がんばってください」「必ず乗り越えてください」などと声をかけながら一人ずつにサインし、握手や写真撮影にも丁寧に応じてくださいました。特に子どもたちには大人気で、毎日病氣と闘っている子どもたちにとって、大きな喜びとなりました。

緩和ケアをテーマに市民公開フォーラム



大阪大学中之島センターで、第16回大阪大学医学部附属病院市民公開フォーラム「あなたの治療と“思い”を支える緩和ケア」を開催しました。



2月9日(日)、グランフロント大阪ナレッジシアターで「未来医療フォーラム～大阪大学医学部附属病院の取り組み～」と題した市民フォーラムを開催しました。

5回目となる今回は、木村正病院長の開会あいさつに続いて、「ゲノム時代の産婦人科診療」と題した講演がありました。次に、がんゲノム医療センターの坂井大介特任講師がゲノム医療について、未来医療開発部未来医療センターの名井陽センター長が大学と企業との連携や薬の開発について講演しました。最後に、心臓血管外科の澤芳樹診療科長が心筋再生治療について講演しました。多くの方々にお越しいただき、本院の未来医療の取り組みについて理解を深めていただくことができました。

ホスピタリティ賞表彰式



ご意見箱に寄せられた謝意の多かった部署を表彰しました。
〈平成29年度〉 東13階病棟 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
〈平成30年度〉 東12階病棟 糖尿病・内分泌・代謝内科
免疫内科
〈令和元年度〉 西12階病棟 泌尿器科



多様な神経疾患に対応 脳卒中24時間体制で待機

神経内科・脳卒中科は、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、認知症などの神経変性疾患をはじめ、多発性硬化症(MS)や重症筋無力症などの自己免疫性神経疾患、筋強直性ジストロフィー症をはじめとする筋疾患、てんかんや片頭痛など、多様な神経疾患に対応しています。難治性神経疾患に対する治療は、近年著しく進歩しており、震え(本態性振戦)の先端治療として、当科では「集束超音波療法」を行っています。MRIの画像をもとに手の震えを起こす脳の部分を特定し、超音波のエネルギーを集中させて照射し、細胞を壊死させて治療します。外科手術を伴わないため痛みもなく、後遺症の心配もありません。将来的には、パーキンソン病の治療法として期待されています。

また当科は、脳卒中の一つである脳梗塞の治療として、専門医による「脳血管内治療」を実施しています。脳梗塞は、血栓が脳の血管に詰まって血流が途絶え、脳の神経細胞が壊死する病気で、カテーテル

を使用して、詰まっている血栓を回収除去します。迅速な治療が求められるため、本院には「脳卒中センター」が開設されており、担当医師が24時間体制で待機し、即時対応しています。

免疫が自身の正常な細胞や組織を攻撃してしまう自己免疫疾患の治療も大きく進歩しています。多発性硬化症、重症筋無力症などの難病に対して、分子標的薬などの最新薬剤が多く開発されており、検査などにより薬剤の有効性や副作用を判断し、積極的に使用しています。また全身の筋力低下が進行する筋萎縮性側索硬化症に関しても、家族性の場合、原因遺伝子が特定されたことで遺伝子治療の研究が進み、治験もスタートしています。

化学療法部

化学療法部は、外来患者さんの抗がん剤治療や免疫疾患の治療のお手伝いをさせて頂いています。現在、さまざまながんに、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤など多くの有効な抗がん剤が開発されています。また、関節リウマチ、炎症性腸疾患などの自己免疫疾患の患者さんの治療におきましても、生物学的製剤といわれる新規薬剤が広く使用されるようになってい

抗がん剤や免疫疾患治療 多職種で外来患者支援



化学療法部が担当している化学療法室は、外来通院をされておられる患者さんに、これらの薬剤を安全に投与させて頂き、安心して、快適に治療を受けて頂くための場所です。化学療法室の歴史は、平成15年、現在の内科1階・総合診療外来の場所の一角に、12床のチェアとベッドで始まり、その後、19床までベッド数を増やしましたが、より多くの患者さんに治療を受けて頂くために、平成27年にオンコロジーセンター棟を設立し、2階と3階の二つのフロア合わせて42床の化学療法室ができました(ベッド17、チェア25)。

化学療法部が担当している化学療法室は、外来通院をされておられる患者さんに、これらの薬剤を安全に投与させて頂き、安心して、快適に治療を受けて頂くための場所です。化学療法室の歴史は、平成15年、現在の内科1階・総合診療外来の場所の一角に、12床のチェアとベッドで始まり、その後、19床までベッド数を増やしましたが、より多くの患者さんに治療を受けて頂くために、平成27年

4階にはオンコロジーセンター薬剤室があり、薬剤師が患者さんに使用する薬剤を無菌的に調整して、化学療法室へ搬送するとともに、ベッドサイドで治療薬の副作用などについて専門的な立場からお話をさせて頂いています。さらにはがん相談支援室があり、医療ソーシャルワーカーが、がんの治療に関するさまざまな悩み、疑問について相談に応じています。化学療法部では、右記のような多職種の医療者が、各診療科と協力して、患者さんの外来での治療を支えています。

栄養マネジメント部長 / おすすめ御膳

- メニュー
・焼カレー
・サラダ
・ポトフ
・ご飯
・苺のデザート

3月26日に栄養マネジメント部の下村伊一郎部長おすすめ御膳を提供しました。下村部長の回では、カレーメニューが恒例となっています。これまでカレーピラフやグリーンカレーを提供しました。今回は焼カレーです！具だくさんのカレーにチーズをのせてカリッと焼き上げました。カレーのお供にはらっきょうを添えています。副菜はカレーに負けないカラフルな彩りにしました。お楽しみのデザートはスパイシーなカレーに合うように、旬の苺を使用してさっぱりとした口当たりとしました。

食事によってみなさまの気持ちが明るくなっていただけるように、全体的に華やかな春らしい彩りにしました。何度も試作を繰り返し、味・見た目ともに喜んでいただける献立を作成しました。